

---

# 特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

## 2016年通常総会

### 議案書

---

1. 日 時 2016年6月19日（日）12：00～13：00
2. 場 所 葛西臨海公園 鳥類園ウォッチングセンター  
レクチャー・ルーム  
東京都江戸川区臨海町6丁目地内  
JR京葉線葛西臨海公園駅下車徒歩15分
3. 議 題 (1) 2015年度 事業報告  
(2) 2015年度 収支決算  
(3) 2016年度 事業計画  
(4) 2016年度 収支予算  
(5) 沖縄問題に関するラムサール・ネットワーク日本からの  
メッセージ  
(6) 役員を選任

※総会の終了後、13：30からシンポジウム「日本のラムサール条約  
湿地 50 から 100 へ」を開催します。

※総会にご出席の際は本議案書をお持ちください。



NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F

TEL/FAX 03-3834-6566 Eメール info@ramnet-j.org

# 2015年度 事業報告

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## 1 会員数の状況 (2015年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (1口5千円)	102	(102)
団体正会員 (1口1万円)	20	(17)
特別正会員 (5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (1口2千円)	94	(95)
団体賛助会員 (1口1万円)	1	(1)
特別賛助会員 (3万円以上)	2	(2)
企業賛助会員 (1口10万円)	1	(1)

## 2 会議の開催の状況

2015年

- 4月19日 理事会 (東京・雑司が谷地域文化創造館 第1会議室)
- 6月27日 理事会 (東京・巣鴨地域文化創造館 多目的ホール)
- 6月27日 総会 (同上)

## 3 事業の実施の状況

### (1) 調査研究事業

2015年

- 4月12日 シギ・チドリ類支援グループ会合
- 7月20日 シギ・チドリ類支援グループ会合
- 10月23～24日 モニタリングサイト1000交流会 (金沢市) に柏木が参加
- 12月21日 EAAF (東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ) 国内連絡会に柏木が参加

### (2) 保全再生事業

2015年

- 4月9日 第43回水田決議円卓会議準備会開催
- 5月11日 第44回水田決議円卓会議準備会開催
- 7月6日 第45回水田決議円卓会議準備会開催
- 7月28日 安全保障関連法案 (安保法案) に反対する環境 NGO 共同声明
- 8月20日 田んぼ10年だより第3号発行
- 8月31日 第46回水田決議円卓会議準備会開催
- 10月5日 第47回水田決議円卓会議準備会開催
- 11月11日 第48回水田決議円卓会議準備会開催
- 11月29日 【緊急シンポジウム】 救え! 沖縄・泡瀬干潟 を日本自然保護協会、泡瀬干潟を守る連絡会と主催

1 1月30日 四国横断自動車道吉野川渡河部建設に関して国交省に要請

1 2月1日 田んぼ10年だより第4号発行

2016年

1月18日 第49回水田決議円卓会議準備会開催

3月1日 第50回水田決議円卓会議準備会開催

3月5日 田んぼ10年だより第5号発行

### (3) 普及啓発事業

2015年

5月22日を中心とする4～6月 湿地のグリーンウェイブ

12月10～12日 エコプロダクツ展2015「生物多様性ナレッジスクエア」(東京ビッグサイト)に出展

5月16～17日 エコトーン・プロジェクト サイト・ビジット (中池見・三方五湖)

2016年

1月22日～23日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会・琵琶湖

2月13～14日 エコトーン・プロジェクト サイト・ビジット (蕪栗沼等)

2月20～21日 にゅじゅうまるCOP2 (名古屋市)

2月27日 生きものあふれる田んぼと地域づくりシンポジウム・豊後大野市

3月13日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会・東京秋葉原

### (4) 国際協力事業

2015年

4月2日 WWNスカイプ会議

6月2日 WWN主催

ラムサールCOP12 (ウルグアイ/プンタデルエステ) プレCOP会議

6月2日～9日 ラムサールCOP12 (ウルグアイ/プンタデルエステ) 参加

6月3日 WWN サイドイベント「ラムサールにおけるNGOの貢献—アンケート分析結果発表」

6月4～6、8、9日 WWN NGO 打合せ

6月8日 サイドイベント「水田決議その後」(ラムネットJ、環境省、農水省共催)

6月19日 WWNスカイプ会議

9月23日 WWNスカイプ会議

### (5) ネットワーク推進事業

2015年

7月27日 ラムネットJニュースレター第20号発行

11月1日 ラムネットJニュースレター第21号発行

2016年

1月15日 ラムネットJニュースレター第22号発行

#### 4 助成金・受託事業の状況

- (1) 地球環境基金 田んぼ10年プロジェクト（ラムサールCOP12含む）  
2014年4月～2015年3月 3,926,000円

### 2015年度事業報告（プロジェクト別）

#### (1) 調査研究事業

##### ●シギ・チドリ部会

シギ・チドリ類支援グループ会合（福岡市まもる一む福岡）（立上げ4/12：高野、服部、柏木、7/20：花輪、柏木）。ふくおか湿地保全研究会主催の講演会でヘラシギの現状について発表（服部、柏木）。経団連自然保護基金に助成申請。4月にシギ・チドリ類支援のためのアンブレラグループを Shorebird Stepping Stones として立ち上げることはできたが、メーリングリスト等の効率的運用ができず、実質的には準備活動で終わった。2016年度にはシギ・チドリ部会として、積極的に推進できるようにしたい。

●モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査検討委員会・交流会（金沢市）（10/23、24：柏木）。

●EAAF パートナーシップ国内連絡会（12/21：柏木）

#### (2) 保全・再生事業

●四国横断道路吉野川渡河部関係（井口、東京での行動にはラムネットJとして柏木も）

国土交通省四国事務所、本局、国会議員等との情報交換、要請等（NACS-J、WWF ジャパンと共同で）。工事着工にあたり、一つ上流のしらさぎ大橋並みのモニタリングと国交省からの環境に関する指導を要請。引き続き注視と働きかけを要する。

●中池見湿地・新幹線ルート関係（上野山、柏木）

シンポジウム「ラムサール条約湿地の守り方最前線」（10/12、NACS-J 主催）。鉄道運輸機構あて条約決議遵守の要望書を NACS-J、ウェットランド中池見、中池見ねっと、日本湿地ネットワーク、日本野鳥の会、WWF ジャパンと共同で準備（2016/4/8 提出）

●沖縄の生物多様性

泡瀬干潟を守る連絡会の取り組みや、沖縄県議会での嘉陽県議（共産）の質疑などで、泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録の動きが急速に進んだ。その成果を元に、2015年11月29日に、東京で、「緊急シンポジウム 救え！ 沖縄・泡瀬干潟～辺野古埋立ての一方で進行するもうひとつの自然破壊～」を開催し、翌日30日には、環境省に「泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録を進めること」を要請した。環

境省回答は、「将来的に実現できる方向に進めたい」であり、大きな前進であった。2016年2月12日には、環境省那覇事務所、沖縄市役所を訪問して登録促進を要請した。

また、翁長知事を先頭にした沖縄県民の辺野古埋立・新基地建設を許さない闘いが高揚する中で、ラムサール・ネットワーク日本としても、沖縄の環境破壊の諸問題に対する立場を表明するために「沖縄問題（特に辺野古新基地建設、泡瀬干潟等の埋立、高江ヘリパット建設など）に関するラムサール・ネットワーク日本からのメッセージ」の検討を進め、理事会に提出してきた。

### ●田んぼ10年プロジェクト

参加者数が倍増し160個人・団体となった。水田部会（ラムネットJ）と水田決議円卓会議準備会議（ラムネットJ、農水、環境、国交省）を6週間に1回程度定期開催した。「田んぼ10年プロジェクト」を先進事例とし、国内及びアジア、アフリカ及び中南米のネットワーク化をめざし、ラムサールCOP12（6月、ウルグアイ）期間中に、公式サイドイベントを日本政府と共催し、アジア、アフリカ、中南米の関係者が参加し現状と課題を共有した。またブース展示もを行い、各国の関係者との意見交換と情報収集を行った。日本国内では、地域交流会を2回（滋賀・京都、及び大分県）開催し、全国大会を東京で開催した。メーリングリストと「田んぼ10年だより」（3回発行）で、情報共有に努めた。国内外に向けて活動を発信する印刷物を刊行し、英語版は国際的な場で活用した。

#### (3) 普及・啓発事業

### ●湿地のグリーンウェイブ

全国の湿地を結んで湿地保全の大切さをアピールするという湿地のグリーンウェイブであるが、参加者が減少してきている。2016年は参加しやすいように締め切りを伸ばし、詳細未定のイベントも受け付け可能としたが、31件の参加という結果になった。関東以北の参加が少なくなっている。キーホルダーを作成して各地にプレゼントした。また、湿地のグリーンウェイブ参加団体もIUCN-Jのにじゅうまるプロジェクトへの登録ができるようにした。12月、エコプロ展（国際展示場）で各地の活動紹介を出展した。

#### (4) 国際協力事業

### ●WWN（世界湿地ネットワーク）

スカイプ会議（4/2、6/19、9/23）。代表クリス・ロストロン氏が4月末で代表を退いたが、COP12はそれまでの準備をもとに、地域NGOとしての存在を示し、所期の成果を得ることができた。今後の方向性について模索中である。

### ●ラムサールCOP12（6月2～9日）

プレCOP12 NGO ミーティング（WWN・ラムネットJ共催、6/2）。WWN NGO 打合せ（6/4～6、8、9）。WWN サイドイベント「ラムサールにおけるNGOの貢献—アンケート分析結果発表」（6/4）。サイドイベント「水田決議その後」（ラムネットJ、環境省、農水省共催、6/8）。日本国際湿地保全連合主催「ラムサールCOP12報告会」で参加報告（6/25）。第13回ラムサール条約推進国内連絡会議（12/11）。日本湿地学会「湿地研究 Vol.6 No.1」2016年3月に報告「ラムサールCOP12 参加報告～ラムサール条約と地域NGO～」を投稿（柏木）。

## ●日韓湿地 NGO の連携

前年度 2015 年 2 月末の第 10 回日韓湿地 NGO フォーラムを受け、COP12 の機会を利用して 6/9 に日韓 NGO で今後の方針について協議した。第 11 回は日本において実施。時期は未定。連絡を継続とした。自然保護助成基金が 2 月末締め切りの新しい助成金の枠組みを発表、日韓フォーラムと WWN を組み合わせて助成を申請。

### (5) エコトーン事業

2015 年度のエコトーン・プロジェクトは、一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）と共同実施して、EPC が HSBC から受けた寄付によって計 18 か所の湿地保全団体を支援し、5 月に中池見・三方五湖のサイトビジット、2 月に蕪栗沼等のサイトビジットを行い、HSBC 職員を現地に案内して、保全作業に従事してもらった。

### (6) ネットワーク推進事業

## ●ニュースレター

2015 年度はニュースレターを 4 回発行した（20～23 号、但し 23 号は 4 月 1 日付け）。主な記事としては、「ラムサール条約 COP12（ウルグアイ）での活動報告」、「鬼怒川堤防決壊を教訓に流域治水への転換を」、「コウノトリ野生復帰の今、そして今後の展望」、「諫早湾開門をめぐる新たな動き」など。毎回、1500 部程度印刷し、会員や関連団体に郵送したほか、会員団体の機関誌への同封や各種イベントでの配布も行った。

## 2015年度 収支決算

(2015年4月1日～2016年3月31日)

### 貸借対照表

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
2016年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未 払 金	485,602
現 金	38,957	流動負債 計	485,602
普通 預金	2,219,094	<b>負債の部合計</b>	<b>485,602</b>
現金・預金 計	2,258,051	<b>正 味 財 産 の 部</b>	
(売上債権)		<b>【正味財産】</b>	
未 収 金	61,958	前期繰越正味財産額	2,285,893
未収助成金	1,180,000	当期正味財産増減額	728,514
売上債権 計	1,241,958	正味財産 計	3,014,407
流動資産合計	3,500,009	<b>正味財産の部合計</b>	<b>3,014,407</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>3,500,009</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>3,500,009</b>

# 財 産 目 録

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
2016年 3月31日 現在

## 《資産の部》

### 【流動資産】

(現金・預金)

現 金	38,957	
普通 預金	2,219,094	
郵便口座	(670,285)	
みずほ銀行	(5,222)	
三菱東京UFJ銀行	(300,619)	
りそな銀行	(1,235,416)	
paypal	(7,552)	
現金・預金 計	2,258,051	

(売上債権)

未 収 金	61,958	
EPC	(61,958)	
未収助成金	1,180,000	
地球環境基金	(1,180,000)	
売上債権 計	1,241,958	

流動資産合計 3,500,009

資産の部 合計 3,500,009

## 《負債の部》

### 【流動負債】

未 払 金	485,602	
矢嶋悟	(20,000)	
クロネコヤマト	(12,820)	
松本悟	(69,336)	
NTTファイナンス	(10,152)	
浅野正富	(145,141)	
丸山明子	(228,153)	

流動負債 計 485,602

負債の部 合計 485,602

正味財産 3,014,407



# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本 自 2015年 4月 1日 至 2016年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
<b>【経常収益】</b>			
<b>【受取会費】</b>			
一般正会員	315,000		315,000
団体正会員	170,000		170,000
一般賛助会員	118,000		118,000
団体賛助会員	12,000		12,000
特別正会員	200,000		200,000
特別賛助会員	30,000		30,000
<b>【受取寄付金】</b>			
受取企業協賛金	500,000		500,000
受取寄付金	6,975,341		6,975,341
<b>【受取助成金等】</b>			
受取助成金	3,926,000		3,926,000
<b>【事業収益】</b>			
受託事業収益	257,001		257,001
<b>【その他収益】</b>			
受取 利息	508		508
雑 収 益	8,357		8,357
経常収益 計	12,512,207	0	12,512,207
<b>【経常費用】</b>			
<b>【事業費】</b>			
(人件費)			
臨時雇賃金	89,000		89,000
人件費計	89,000	0	89,000
(その他経費)			
業務委託費	530,119		530,119
諸 謝 金	565,000		565,000
印刷製本費(事業)	324,500		324,500
会 議 費(事業)	40,516		40,516
旅費交通費(事業)	5,914,601		5,914,601
通信運搬費(事業)	126,134		126,134
消耗品 費(事業)	21,163		21,163
賃 借 料(事業)	426,257		426,257
保 険 料(事業)	20,400		20,400
租税 公課(事業)	5,550		5,550
支払手数料(事業)	27,769		27,769

# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本 自 2015年 4月 1日 至 2016年 3月31日

雑 費(事業)	10,400		10,400
その他経費計	8,012,409	0	8,012,409
事業費 計	8,101,409	0	8,101,409

# 活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本 自 2015年 4月 1日 至 2016年 3月31日

## 【管理費】

(人件費)

通 勤 費	158,196		158,196
法定福利費	16,200		16,200
福利厚生費	11,587		11,587
人件費計	185,983	0	185,983

(その他経費)

事務委託費	2,019,750		2,019,750
印刷製本費	71,465		71,465
旅費交通費	559,914		559,914
通信運搬費	238,777		238,777
消耗品 費	16,065		16,065
地代 家賃	480,000		480,000
賃 借 料	60,810		60,810
諸 会 費	25,000		25,000
租税 公課	600		600
支払手数料	23,704		23,704
雑 費	216		216

その他経費計 3,496,301 0 3,496,301

管理費 計 3,682,284 0 3,682,284

経常費用 計 11,783,693 0 11,783,693

当期経常増減額 728,514 0 728,514

## 【経常外収益】

経常外収益 計 0 0 0

## 【経常外費用】

経常外費用 計 0 0 0

税引前当期正味財産増; 728,514 728,514

経理区分振替額 0 0 0

当期正味財産増減額 728,514 0 728,514

前期繰越正味財産額 2,285,893

3,014,407

## 財務諸表の注記

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2016年 3月31日 現在

### 【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

### 【事業費の内訳】

事業費の区分は次ページの通りです。

### 【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ラムサールCOP12特別協賛金	0	95,000	95,000	0	
シギ・チドリ/ヘラシギ保全	0	205,000	27,180	177,820	
合計					

## 事業費の内訳

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2016年 3月31日 現在

[税込] (単位: 円)

科目	特定非営利活動に係る事業					
	ラムサールCOP	田んぼ10	ICEBA	エコトーン	にじゅうまる	ヘラシギ
(人件費)						
臨時雇賃金		89,000				
人件費計	0	89,000	0	0	0	0
(その他経費)						
業務委託費	460,783					
諸謝金	40,000	385,000		20,000	70,000	
印刷製本費(事業)	87,721	88,675				
会議費(事業)		10,356		30,160		
旅費交通費(事業)	764,659	1,584,711	137,760	3,341,031	59,260	27,180
通信運搬費(事業)	8,544	37,587		7,687	4,768	
消耗品費(事業)	2,124	17,966				
賃借料(事業)	103,116	279,370		18,171		
保険料(事業)	6,000			14,400		
租税公課(事業)				5,550		
支払手数料(事業)	16,969	7,560	216	1,080	1,512	
雑費(事業)					10,400	
その他経費計	1,489,916	2,411,225	137,976	3,438,079	145,940	27,180
合計	1,489,916	2,500,225	137,976	3,438,079	145,940	27,180

科目	特定非営利活動に係る事業						合計
	ニュースレター	湿地のGW	エコプロ展	沖縄部会関係	CCEC	CBD COP12	
(人件費)							
臨時雇賃金							89,000
人件費計	0	0	0	0	0	0	89,000
(その他経費)							
業務委託費		69,336					530,119
諸謝金					50,000		565,000
印刷製本費(事業)	100,000	40,000	4,404			3,700	324,500
会議費(事業)							40,516
旅費交通費(事業)							5,914,601
通信運搬費(事業)	38,868	9,000	11,880		7,800		126,134
消耗品費(事業)			579			494	21,163
賃借料(事業)			21,600	4,000			426,257
保険料(事業)							20,400
租税公課(事業)							5,550
支払手数料(事業)		216	216				27,769
雑費(事業)							10,400
その他経費計	138,868	118,552	38,679	4,000	57,800	4,194	8,012,409
合計	138,868	118,552	38,679	4,000	57,800	4,194	8,101,409

# 2016年度 事業計画

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## (1) 調査研究事業

### ●シギ・チドリ類部会

シギ・チドリ類支援のためのアンブレラ組織 Shorebird Stepping Stones の一環として、シギ・チドリ類／ヘラシギの保全と啓発の活動を行う。今年度は経団連自然保護基金の助成金を利用し、条約湿地のある荒尾市役所と共催するシンポジウムの開催（2017/2/4～5）に焦点を当てて、準備、その他の活動を行う。

\*予算：102万円

## (2) 保全・再生事業

### ●沖縄の生物多様性

①「沖縄問題（特に辺野古新基地建設、泡瀬干潟等の埋立、高江ヘリパット建設など）に関するラムサール・ネットワーク日本からのメッセージ」を総会で決議し、それを公表し、諸団体に郵送するとともに、様々な集会で活用していきたい。②第二次泡瀬干潟訴訟は、今秋にも判決が予定されている。勝利に向けての取り組みも進めたい。③泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録を 2018 年ドバイの COP13 で実現させる取り組みの強化。

\*予算：10万円

### ●田んぼ10年プロジェクト

参加者の更なる増加をめざす。水田部会（ラムネット J）と水田決議円卓会議準備会議を定期開催する。地域交流会を2回、全国大会を1回開催し、ICEBA2016 で分科会を開催する。CBD SBSTTA20、SBI1（モンテリオール、4～5月）及び CBD/COP13（カンクン、12月）で、田んぼ10年プロジェクトを、農林漁業での生物多様性の主流化に関する成功事例として国際的に発信し、国際的なネットワークの充実をめざす。メーリングリストの運営、「田んぼ10年だより」発刊、及び専用のホームページを立ち上げ、ポスター、冊子等の啓発普及に役立つツールを積極的に作成、使用する。

\*予算：450万円

## (3) 普及・啓発事業

### ●湿地のグリーンウェイブ

2015年までの40～50以上のイベント参加数を取り戻すために、2017以降は担当者が交代し、地域の人々が必要とする新しいアイデアを活動に組み込むこと、助成金を獲得し報告会や展示活動を再開すること、インターネットを通じて活発なコミュニケーションを図ることとする。新しい担当者を交えて参加者へのアンケートを実施し、結果をもとに2017年以降の計画を立てる。

\*予算：20万円

#### (4) 国際協力事業

##### ●日韓湿地 NGO フォーラム・世界湿地ネットワーク (WWN) 他

自然保護助成基金の支援を受けた「地域 NGO の国際条約への貢献」に関するプロジェクトとして、第 11 回日韓湿地 NGO フォーラムと併せ、地域 NGO のラムサール条約への関わりを考えるワークショップを韓国 NGO と協力して開催。日韓 NGO を中心として、中期的には世界湿地ネットワークの持ってきた役割を確保し、長期的には地域住民・地域 NGO による条約の充実を目指す。

\*予算：250 万円

#### (5) エコトーン事業

2016 年度のエコトーン・プロジェクトは、引き続き一般社団法人環境パートナーシップ会議 (EPC) と共同実施し、EPC が HSBC から受けた寄付によって計 16 か所の湿地保全団体を支援し、5 月には豊岡市でのサイトビジットを行い、HSBC 職員を現地に案内して、保全作業に従事してもらう予定である。

\*予算：240 万円

#### (6) ネットワーク推進事業

##### ●ニュースレター

昨年度と同様に、2016 年度も 4 回程度 (7 月初旬、10 月初旬、1 月初旬、3 月末 (4 月 1 日付け)) 発行する。

\*予算：20 万円

# 2016年度 収支予算

2016年4月1日～2017年3月31日

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

## I 経常収益

科目	2016年予算(A)	2015年予算(B)	比較(A-B)	2015年度決算	備考
受取会費	850,000	900,000	△ 50,000	845,000	
受取寄付金	6,170,000	300,000	5,870,000	7,475,341	企業寄付・協賛金 約600万円ほか
受取助成金等	7,520,000	5,000,000	2,520,000	3,926,000	JFGE 450万円、KNCF 102万円、PN 200万円
事業収益	600,000	5,400,000	△ 4,800,000	257,001	ICEBA 60万円
その他収益	100,000	100,000	0	8,865	
経常収益計(a)	15,240,000	11,700,000		12,512,207	

## II 経常費用

<b>1 事業費</b>					
(1) 調査研究事業	1,020,000	300,000	720,000	27,180	
(2) 保全・再生事業	5,200,000	4,250,000	950,000	2,642,201	
(3) 普及・啓発事業	250,000	470,000	△ 220,000	303,171	
(4) 国際協力事業	2,500,000	1,000,000	1,500,000	1,489,916	
(5) エコトーン事業	2,400,000	2,350,000	50,000	3,438,079	
(6) ネットワーク推進事業	200,000	200,000	0	138,868	
その他				61,994	
事業費計	11,570,000	8,570,000	3,000,000	8,101,409	
<b>2 管理費</b>					
(人件費)					事務所スタッフ
賃金、法定福利費等	600,000	0	600,000	27,789	
通勤費	240,000	0	240,000	158,196	
(その他経費)					
事務委託費	2,000,000	1,800,000	200,000	2,019,750	ジーズグリーンラボ(後藤)
印刷製本費	80,000	20,000	60,000	71,465	
会議費	30,000	30,000	0	0	
旅費交通費	600,000	200,000	400,000	559,914	理事会旅費
通信運搬費	240,000	200,000	40,000	238,777	電話、インターネット
消耗品費	150,000	50,000	100,000	16,065	PC新規購入(2016年4月)
地代家賃	480,000	540,000	△ 60,000	480,000	事務所光熱費含
賃借料	100,000	150,000	△ 50,000	60,810	コピー機使用料、総会等会場借料
新聞図書費	10,000	10,000	0	0	
諸会費	160,000	60,000	100,000	25,000	
租税公課	5,000	5,000	0	600	
支払手数料	30,000	30,000	0	23,704	
什器備品費	0	0	0	0	
事務所費	0	0	0	216	
管理費計	4,725,000	3,095,000	1,630,000	3,682,286	
経常費用合計(b)	16,295,000	11,665,000		11,783,695	

当期増減額(a-b)	△ 1,055,000	35,000		728,514	
前期繰越額	3,014,407	1,877,526		2,285,893	
次期繰越額	1,959,407			3,014,407	

### 事業費(予算・見込み)の内訳

事業名	総額	事業名	金額	見合いの収入
(1) 調査研究事業	1,020,000	シギ・チドリ類/ヘラシギ	1,020,000	KNCF 102万円
(2) 保全・再生事業	5,200,000	沖縄の生物多様性保全	100,000	
		ICEBA	600,000	ICEBA 60万
		たんぼ10年プロジェクト	4,500,000	JFGE 450万円
(3) 普及・啓発事業	250,000	湿地のグリーンウェイブ	200,000	
		普及啓発のための諸活動	50,000	
(4) 国際協力事業	2,500,000	日韓NGO湿地F・国際協力/WNN他	2,500,000	PN 200万円、日韓環境賞賞金50万円
(5) エコトーン事業	2,400,000	エコトーン・サイトビジット	2,400,000	企業寄付金から
(6) ネットワーク推進事業	200,000	ニュースレター	200,000	

※JFGE：地球環境基金、KNCF：経団連自然保護基金、PN：自然保護助成基金、ICEBA：生物の多様性を育む農業国際会議



# 沖縄問題に関する ラムサール・ネットワーク日本からのメッセージ

湿地保全にも関連する沖縄の環境破壊の諸問題に対して、ラムサール・ネットワーク日本の立場を表明するために、下記の「メッセージ」を総会で決議することを提案します。

\* \* \*

沖縄問題（特に辺野古新基地建設、泡瀬干潟等の埋立、高江ヘリパット建設など）に関する  
ラムサール・ネットワーク日本からのメッセージ

## 1. なぜ今、私たちはメッセージを発信しなければならないのか

沖縄では、1972年の本土復帰以降、公共事業への過度な依存が進み、貴重な観光資源でもあるはずの自然を破壊し続けてきた。沖縄本島の中・南部の海辺はどこも埋立地だらけで、県面積に占める埋め立て面積の割合は全国でもトップクラス。その他の島でも新石垣空港の建設やリゾート開発などの事業により、かけがえのない自然が破壊されてきた。

そうした中、「コンクリートから人へ」を理念とした民主党政権が2009年に誕生し、米軍普天間基地の「最低でも県外移設」や泡瀬干潟埋め立て中止を公約した鳩山内閣に大きな期待を持った。ところが、政権内部の不協和音や官僚への対応の未熟さから、従来の政官業癒着構造の前に、公約は次々と反故にされ、辺野古新基地建設や泡瀬干潟埋め立て推進へと転じてしまった。中でも裁判で「埋立ての公金支出差し止め」が確定した泡瀬干潟埋め立てが形を変えて推進されたことは、民主主義に対する挑戦であった。さらに、安倍自公政権になると、辺野古新基地建設をはじめとする自然破壊事業が、民意を無視して強権的に進められるようになった。安倍内閣の沖縄問題への対応は、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を原則とする憲法を無視した暴力政治であり、私たちは、こうした異常事態に直面し、改めてラムサール条約の精神に基づく持続可能社会の実現をアピールせずにはいられない。

## 2. ラムサール条約の理念

ラムサール条約（湿地保全に関する国際条約）では『湿地のワイズユース』を目的としているように、湿地は、様々な生きものの生息地としてのみならず、私たちの暮らしを支える重要な場所である。地球は水の星であり、水の循環による多様な生態系が、私たちのいのちと暮らしを支えている。湿地は、降雨を集めて水を私たちに提供してくれるほか、嵐や洪水の被害を小さくし、そこに生きる多様な生きものが支える食物連鎖によって私たちの食をも支えている。また、かけがえのない学びや安息の場でもあり、観光資源としても貴重な場所である。私たちの先輩である先住民は、自然の恵みに感謝し、持続的に受け継いでいけるように暮らしてきた。先住民に学ぶということもラムサール条約の大切な理念である。

## 3. 沖縄の自然に対する様々な脅威

辺野古・大浦湾、泡瀬干潟、大嶺海岸、浦添海岸は、いずれもラムサール条約登録湿地の潜在候補地

であり、海草藻場やサンゴ礁などが多様に広がり、新種や絶滅危惧種の生息する極めて貴重な場所である。沖縄県の「自然環境の保全に関する指針」でも最上級の評価であり、辺野古などは、海岸保全条例の対象にもなっている。いずれの海域も、いったん埋め立てられると現況への自然への回復は不可能になってしまう脆弱な生態系である。生物多様性条約の愛知目標を達成するには、これら沖縄の海域を保全することは不可欠である。辺野古埋め立てが進めば、その土砂供給先である瀬戸内海、五島列島、天草諸島、奄美大島、徳之島などの環境破壊も深刻となる。翁長県政は、**辺野古新基地建設に反対し、承認取り消しを決定したが、私たちはこれを全面的に支持する。**同時に、**泡瀬干潟や大嶺海岸、浦添海岸についても埋め立て見直しを決断することを強く求める。**自然環境的な価値の貴重さを同じくするこれらの場所で二重基準（ダブルスタンダード）は許されない。**辺野古・大浦湾、泡瀬干潟、大嶺海岸、浦添海岸はいずれもラムサール条約湿地に登録されなければならない、国および地元自治体の協力を要請する。**

また、軍事基地が生態系に与える影響も深刻である。たとえば、沖縄・金武町の米軍海兵隊基地（キャンプハンセン基地）での実弾射撃訓練による山火事発生では環境破壊の元凶になってきた。**東村高江における米軍ヘリパット建設と軍事訓練は、固有の生態系として貴重な価値を有するやんばるの森を破壊し、生物多様性に悪影響を及ぼす。**宮古島や与那国島での**自衛隊基地建設も、湿地などの自然環境に悪影響を与える。**私たちは、**自然環境破壊をもたらすこれらの軍事基地建設に反対する。**リゾート開発では、**西表島・トドゥマリ浜や竹富島・コンドイ浜などにおける開発が心配である。**私たちは、**かけがえのない自然を破壊するこれらリゾート開発に反対する。**

環境省は、2016年5月、「生物多様性の観点から重要度の高い重要海域」を選定した。沖縄の周辺海域は、**辺野古・泡瀬海域などほとんどの海域が重要海域であり、将来的にはその10%程度が「保護区」に指定される予定である。**環境省はまた、2001年に選定した「重要湿地500」の見直しを進め、2016年4月に「生物多様性の観点から重要度の高い湿地＝重要湿地を公表した。全国で633箇所、沖縄では中城湾（泡瀬干潟）、大浦川及び河口部など66箇所が選定されている。

### 3. 連帯の誓い

このように、沖縄は本土資本による自然破壊のデパート（草刈り場）と化している。「オール沖縄」で支えられた翁長県政が進める**辺野古新基地建設阻止行動**が私たちに問いかけるものは、**ラムサール条約の目標である持続可能社会の実現であり、「コンクリートから人へ」の理念実現ではないだろうか。**自由・平等・人権・自己決定権をないがしろにされてきた歴史をふまえた沖縄からの問いかけは、**国家統制社会への変貌に繋がる憲法改正を目論む安倍内閣の強権政治を前にして、極めて重い。**私たちは、**自立と共生にもとづく持続可能社会の実現をめざし、かけがえのない沖縄の自然を守るため、民主主義を守り自然保護を願う多くの団体と連帯し行動する。**

参考：上記アピールの参考に、1. 翁長知事誕生までの経過 2. 辺野古埋立承認取り消しの経過 3. 法廷闘争（国提訴の代執行訴訟）の経過をしめす。
---

参考1. 翁長知事誕生までの経過（辺野古移設許さない立場は、沖縄県民の総意である）

1. 名護市長・名護市議選(2014年1月、辺野古移設反対の候補者の勝利)  
 辺野古新基地建設反対：稲嶺進            辺野古新基地建設容認：末松文信  
 稲嶺進氏が当選    同時に行われた市議会議員選挙も稲嶺進氏支持の与党が勝利
2. 沖縄県知事選(2014年11月、翁長・辺野古移設反対圧倒的勝利)  
 辺野古新基地建設反対：翁長雄志            辺野古新基地建設容認：仲井真弘多  
 翁長雄志氏が10万の大差で勝利
3. 衆議院選挙(2014年12月、沖縄選挙区1区～4区、オール沖縄勝利、自民党候補はすべて敗北、辺野古移設反対4候補勝利)    ※沖縄の民意は辺野古移設反対  
 1区：赤嶺政賢(共産)    2区：照屋寛徳(社民)    3区：玉城デニー(生活)  
 4区：仲里利信(無所属)    以上4氏(オール沖縄の代表)が当選

#### 参考2. 辺野古埋立承認取り消しの経過

1. 第三者委員会の報告(2015年7月16日、仲井真知事の承認は瑕疵有、A4、132頁、殆どが環境問題)
2. 国と県の協議(8月～9月)・打ち切り(9月7日)・国の工事着工宣言(9月12日)
3. 翁長知事の承認取消表明、承認取消通知(10月13日、15頁中13頁、環境問題)

#### 参考3. 法廷闘争(国提訴の代執行訴訟)の経過

1. 国の不服審査請求(県の辺野古沖の作業の一時停止を指示したことへの不服審査請求9月27日、私人の立場)、国交省の「知事の承認取り消し」の「取消」、国本体工事着工(10月29日、本体工事はウソ、陸上部分)
2. 国の是正勧告(10月28日)、県拒否(11月6日)、国是正指示(11月9日)、県拒否(11月11日)    ⇒国代執行求め高裁提訴(今度は国の立場、11月17日)、
3. 代執行訴訟、第1回口頭弁論、12月2日、知事冒頭意見陳述
4. 県の国地方係争処理委員会への申し立(11月2日)、
5. 国地方係争処理委員会は、沖縄県の申し出を「却下」2015年12月24日
6. 翁長知事、国相手の抗告訴訟(国交省の決定は違法)を県議会議決12月19日を経て12月25日提訴
7. 代執行訴訟、第2回口頭弁論、2016年1月8日
8. 代執行訴訟、第3回口頭弁論、2016年1月29日、裁判所和解案を提案  
 翁長知事2月15日、稲嶺名護市長2月29日の証人尋問決定、他7人の証人については意見陳述書採用・証人尋問は無し、裁判所の和解勧告(根本的な解決策、暫定的な解決策)、2月29日結審
9. 3月4日、国、和解案を受け入れ(翁長知事は、すでに受け入れを表明していた)ため、和解が成立。辺野古工事中断、国・県協議開始。  
 ※この和解は、実質的には沖縄県・翁長知事側の勝利である。これはまた、音が知事を支

えてきた沖縄県民の勝利でもある。

県、これまでの訴訟は取り下げ。しかし、国は「辺野古唯一の選択肢」は変わらないを表明。

10. 3月7日、国交省、翁長知事の承認取り消しの是正指示、翁長知事は拒否。
11. 3月15日、翁長知事、国地方係争委員会（係争委）に国の指示の「違法性」の審査を請求。係争委、審査受入れ、審査中。6月21日までに結論を出す。
12. 係争委の結論(2016年6月21日予定)
  - ①国の是正指示は適法との審査結果⇒翁長知事は、高裁に提訴
  - ②国の是正指示は違法との審査結果⇒
    - ◎国が従う場合＝翁長知事の承認取り消しは有効
    - 国が従わない場合⇒高裁に提訴